

平成28年度小中野中学校経営方針

校長 工 藤 聡

1 基本方針

①経営の基底

教育の目的は、人間性豊かで、社会の形成者としての力を備えた人づくりであるが、理想とする均質な人間を育成するわけではない。成熟した人間社会というのは、一人一人の特性を十分に生かされた社会である。ある程度の基盤を集団で育てるにせよ、個々の成長には差があり、生徒指導等で苦勞の多い生徒も、成長期ゆえの葛藤と捉え、関わりのある大人がきちんと向かい合いながら成長につき合い、社会で生かせる個性を共に見いだすことが大事だと考える。

また、学校における授業をはじめ全ての教育活動には、教育の目的に即した意味が厳然と存在する。そして、学校教育における集団の基盤づくりと個性の伸長を目指すうえでポイントとなるのが、学びや活動における意味の見いだしである。学びの内容や活動の中に、その都度意味を見いだすことができなくても、後に「小中野中で学んだことはこういうことだったんだ、こういう意味なんだ、こういうときに生かされるんだ」と実感できれば、それは必ず次の学びや活動への意識を変え、生徒自身の生き方にも影響を及ぼすはずである。今日の学び、今日の活動が、社会で自分を生かすために必要なことだと実感できる教育を基底に据え、教育要素である。「知」「徳」「体」のバランスを大事にして、教育目標の具現化を図っていく。

②基本方針

中学校は、小学校における教育基盤の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すことを目的としている。そして、本校は青森県教育委員会及び八戸市教育委員会の方針と重点を踏まえ、全教職員が協調と責任を持って学校経営へ参画し、教育目標・努力目標の具現化に努めることとする。また、「確かな学力（知）」「豊かな人間性（徳）」「たくましく生きるための健康・体力（体）」の教育要素をバランスよく育てるものとする。さらに、教職員は全ての教育活動において、生徒自らが自己の学びや活動の意義を考え、今後社会の中で自己を生かし、社会を創造するための力を育む場となり得るカリキュラムを工夫し、実践することとする。

2 教育目標

- (1) 校 訓 ひとつのつぼみはいちどしかひらかない
- (2) 教育目標 しなやかに たくましく 生き抜く生徒（平成26年度設定）
- (3) 努力目標 ○志をもって、自ら学ぼう（知）
○心豊かに互いを大切にしよう（徳）
○粘り強く心身を鍛えよう（体）（平成26年度一部改訂）

3 経営方針

(1) 平成28年度 学校目標

自己有用感をともなった自己肯定感をもてる生徒の育成

○重点施策

基礎的基本的な知識・技能の確実な定着

- ① 「こなノート」の積極的活用による、基本的な生活習慣・学習習慣の定着
- ② ユニバーサルデザインを意識した板書と学び合い場面（効果的な言語活動の工夫の実践（校内研）
- ③ キャリアノートの活用、未来への架け橋講座等による夢や志につながる指導の充実

○評価基準

- ① 年2回学習・生活実践調べを実施し、基本的な生活習慣、学習習慣のプラス評価を80%以上とする。
- ② 年2回学校評価アンケートを実施し、「自己有用感がある」「自己肯定感をもてる」という生徒からの評価を70%以上とする。

(2) 目指す学校像

- ① よく整備され、磨かれ、過ごしやすい環境の学校
- ② 生徒一人一人が、自己有用感をともなった自己肯定感をもてる学校
- ③ 保護者から信頼され、地域と共に歩む学校

4 経営の重点

(1) 学力の向上を目指した学習活動の推進（努力目標「志をもって、自ら学ぼう（知）」

- ① 確かな学力の定着と伸長
生徒にとって分かりやすく魅力ある授業を実践する。また、基礎・基本を定着させ、個人差に応じた指導に努める。
- ② 自ら学ぶ力の育成
こなノートの指導をとおり、学び方を習得させ、家庭と連携して学習習慣の確立を目指す。
- ③ 生徒が、自分自身の生き方や在り方を、「学ぶこと」や「働くこと」と関連づけて考え追求し続けることができるキャリア教育を推進する。